

○予算委員会の論点明確に

予算委員会が先行する形で、国会が走り出しました。政治と金が話題になりましたが、小沢さんが事務所費を公表しました。個人名義でマンションなどの購入をしていたことが問われましたが、最終的には売却して中国との長城計画など公のことに使う念書を入れていることが分かりました。政治資金は、所得税の対象にならず、支援者の政治献金で賄われているのです。だから、その中身は、全てオープンにして領収書なども保存するのが当然だと思います。民主党は、1万円以上の支出についてそうした経理を公表することを決めましたが、私は、1円からやれと言っています。いずれにしても今度は、自民党や閣僚などが、情報開示をする番です。

格差の問題も活発に議論がなされています。安倍政権は、上げ潮路線で、経済の底上げが格差の解消につながるかと主張します。私たちは、そう単純な話ではない。利益の配分に歪みがあるから、せつかくの好景気も、逆に社会の格差を広げることになっている。労働分配率が下がっている事実だけではなく、パート、派遣・請負などの不安定な労働形態が低賃金層を固定化し始めた。また、東京中心の金融政策や国の借金を地方に付け替える財政政策で、地方の格差は、大きく広がった。夕張市などに象徴されるように、実質破綻しているような市町村は、過疎地域の深刻な問題となっている。また、塾などでお金をかけないと、いい学校に行けないということが実感として親の心理にのしかかっている現実。年金制度の不備から、急激に増加して100万を超える生活保護世帯や、子どもたちの就学援助が13%を超えてきたことなど、私たちの身近な生活の中に、格差は確実に広がっています。これまでの政府の政策の失敗を認めさせ、それを転換させることです。

○国民からの公述、委員聴き入る

予算委員会の公聴会で、キヤノンの派遣雇用で7年間働いている32歳の犬野さんの公述がありました。偽装請負で問題になった職場です。「最初、正社員二人、派遣社員二人で作ってきた職場が、今、100人の職場に育ってきた。私は、今の職場にやりがいを持っているし、キヤノンに誇りを持っている。自分達に正規の社員になる道が開け、安定した将来を確信したい。」と、公述しました。キヤノンは、ここ数年で、役員賞与が1億4千万から2億2千万に、配当は、150億から600億に上がっています。キヤノンだけではなく、日本の輸出関連の大手企業は、同じような構造の中で空前の利益をあげているのだと思います。その陰で、肝心の労働者が使い捨ての状況では、日本の企業倫理が問われます。さらに、将来を長い目で見たととき、このままでは、社会不安につながるおそれがあります。特に、キヤノンの御手洗会長は、経団連の会長でもあり、安倍政権を強烈に後押ししている人だけに、一度、国会に出てきて発言をしてもらってはどうかと言っています。

○夜の東京

毎日、朝の8時から始まって、5時までの議論が続きます。時々、野次を飛ばしたり、さらに白熱すると議長席に駆け寄って抗議をしたりすることで、適当な刺激はありますが、小さな椅子に座り続けることは、つらいものです。テレビや週刊誌が居眠りをしている議員を狙い撃ちするのがこんな時です。

夜の会合やパーティーなどが終わると、健康のために九段の宿舎まで歩くことにしています。地方なまりで騒ぐほろ酔いかげんのグループ、楽しそうなカップル、一人帰宅を急ぐサラリーマン等々、夜の東京のドラマを楽しんでいます。